

北総ランドスケープ・マネジメント・センター
令和 8 年度 (2026 年度) 事業計画

LMC 北総

目次

I はじめに

II 事業計画体系

III 令和 8 年度 事業計画

1 地域ビジョン形成

2 グリーンインフラ情報基盤整備

3 連携実践・活動支援

4 影響評価・認証制度検討

5 普及啓発・広報

I はじめに

北総ランドスケープ・マネジメント・センター（以下「LMC 北総」という。）は、印西市及び白井市を中心とする北総地域において、台地、谷津、農地、斜面林、市街地、水辺などを個別の空間としてではなく、相互につながる一つのランドスケープとして一体的に捉え、その自然環境が有する機能を、まちづくり、防災・減災、脱炭素、生物多様性保全、健康・ウェルビーイング、環境教育、地域価値の向上に活かしていくための産学官民連携プラットフォームである。

北総地域には、都市的土地利用が進む一方で、谷津や農地、斜面林、湧水、水路など、水循環や生物多様性を支える多様な自然環境が残されている。これらは、単に保全すべき自然ではなく、雨水の浸透・貯留、暑熱緩和、炭素固定、生きものの生息環境、地域の景観形成、学びや交流の場として、地域の暮らしと産業を支える重要な社会基盤である。一方で、気候変動に伴う短時間強雨や暑熱環境の悪化、管理放棄された農地・樹林地の増加、自然環境を支える担い手の不足、企業活動・行政施策・市民活動・研究知見の分断など、地域の自然環境をめぐる課題は複合化している。これらの課題に対応するためには、個別の場所や活動ごとの対応にとどまらず、地域全体の土地利用、水循環、生態系、暮らし、産業の関係を読み解き、優先的に取り組む場所や活動を見定めながら、多様な主体が連携して実践を積み重ねる仕組みが必要である。

令和 8 年度は、LMC 北総の設立初年度として、今後の事業化・制度化に向けた基礎的な取組を行う。具体的には、地域ビジョンの検討、グリーンインフラに関する情報基盤の整理、雨庭や谷津再生等のモデル的な実践活動、影響評価・認証制度の検討を一体的に進める。これにより、行政施策、企業の環境・地域貢献、市民活動、研究成果を相互に接続し、地域の自然環境を継続的に管理・活用していくための仕組みづくりを進める。

本事業計画は、上記の方針に基づき、令和 8 年度に LMC 北総が取り組む計画事業及び構成事業を整理するとともに、北総地域において自然環境の機能を地域づくりに活かしていくための初年度の取組の方向性を示すものである。

II 事業計画体系

計画事業	事業番号	構成事業
1 地域ビジョンの形成支援	101	地域の将来像の検討
	102	印西グリーンインフラ推進戦略 2027(案)の作成
2 グリーンインフラ情報基盤整備	201	印西市・白井市全域グリーンインフラマップ整理
3 連携実践・活動支援	301	水循環回復型グリーンインフラ実践事業
	302	自然環境の管理に関する活動支援事業
4 影響評価・認証制度検討	401	グリーンインフラ認証制度検討
	402	自然管理を支える資金メカニズムの検討
5 普及啓発・広報	501	設立記念イベントの開催
	502	広報活動

令和 8 年度の事業は、LMC 北総の中核機能である「地域ビジョンの形成支援」「情報基盤の整備」「連携実践・活動支援」「影響評価・認証制度の検討」を中心に構成する。

Ⅲ 令和 8 年度 事業計画

各計画事業の目的及び構成事業は以下のとおりとする。

なお、項目番号に「※」が付いている項目は他機関・組織と連携して実施する項目を示す。

Ⅰ 地域ビジョンの形成支援

印西市・白井市を対象に、自然環境を活かした地域の将来像について立場を超えて議論する場を設け、ビジョン形成を支援する。

101 地域の将来像に関する検討

印西市・白井市を中心とする北総地域を対象に、自然環境、土地利用、産業、暮らし、地域活動の状況を踏まえ、地域の将来像について関係主体が議論を進めるための基礎的な情報整理を行う。今年度は、関連行政計画や地域の現状、関係主体の意見を踏まえ、地域の将来像に関する共通認識の形成に向けた検討を進めるとともに、次年度以降の議論の基盤となる骨子案を作成する。

【事業内容】

- (1) 当該地域に係る関連行政計画（総合計画、土地利用計画、環境基本計画、緑の基本計画、その他水循環・防災等に関する計画等：広域計画、県計画を含む）や関連資料を収集・整理する。
- (2) 関係主体によるワークショップ、意見交換会等を実施し、地域の将来像に関する共通認識の形成を進める。
- (3) 関係主体との議論や意見交換を踏まえ、地域の将来像に関する骨子案を作成する。
- (4) 次年度以降の検討に向けて、今後さらに検討すべき論点、追加調査事項、関係主体との議論の進め方を整理する。

【今年度の目標成果物】

地域の将来像に関する骨子案

102 印西グリーンインフラ推進戦略 2027(案)の作成

印西市におけるグリーンインフラの推進に向け、公共空間、企業敷地、谷津、農地、斜面林等の地域特性及び課題を整理し、実効性のある重点プロジェクト及び制度的支援の方向性を取りまとめる。

【事業内容】

- (1) 当該地域に係る関連行政計画（総合計画、土地利用計画、環境基本計画、緑の基本計画、その他水循環・防災等に関する計画等：広域計画、県計画を含む）や関連資料を収集・整理し、グリーンインフラ推進に関連する既存の方針、目標、施策を把握・整理する。
- (2) 印西市内の公共施設、道路、公園、学校、企業敷地、谷津、農地、斜面林等を対象に、グリーンインフラの推進上重要となる地域特性及び課題を整理する。
- (3) 地域特性、既存の取組及び関係主体の意見等を踏まえ、グリーンインフラの推進に資する取組の方向性を整理し、今後検討すべき施策候補や取組メニューを整理する。
- (4) 施策候補や取組メニューの整理とあわせて、グリーンインフラの推進に必要となる制度、補助金、民間企業・市民団体等との連携方策を整理し、行政としての支援・推進方策を検討する。
- (5) 施策候補、取組メニュー及び制度的支援の方向性を含む「印西市グリーンインフラ推進戦略 2027(案)」として取りまとめ、印西市に提案する。

【今年度の目標成果物】

「印西グリーンインフラ推進戦略 2027(案)」

2 グリーンインフラ情報基盤整備

印西市・白井市全域を対象に、土地利用、水循環、生物多様性、暑熱環境等の情報を整理し、計画立案や活動メニュー作成に活用できる基盤を形成する。

※201 印西市・白井市全域グリーンインフラマップ整理

SIP 等の関連研究プロジェクトとの調整やオープンデータの統合により、グリーンインフラ計画立案に有用な GIS データセットを作成する。あわせて、当該データの公開に向けて、取扱い及び公開方針を整理する。

【事業内容】

- (1) 既存の行政データ、オープンデータ、研究成果、地域活動情報等を収集・整理する。
- (2) 収集した情報をもとに、GIS データセット及びデータリストを作成する。
- (3) 作成した GIS データセットについて、利用対象、活用場面、公開方法、発信媒体、更新方法等を整理し、公開・活用方針を検討する。

【今年度の目標成果物】

GIS データセット(2つ以上の生態系サービスについてのポテンシャルマップ)

3 連携実践・活動支援

印西市・白井市において、グリーンインフラ情報を活用し、効果的な実践を進める。

※301 水循環回復型グリーンインフラ実践事業

市街地における雨庭の設置や、谷津における斜面林の手入れ、湿地管理等を通じて、地域の水循環の保全・回復に向けた実践モデルを試行する。

【事業内容】

- (1) 雨庭設置候補地を選定し、関係者調整を行うとともに、設計・施工・維持管理の考え方を整理する。
- (2) 雨庭を設置するとともに、普及のための行事を行う。
- (3) 耕作・管理が放棄された谷津を対象に、対象地の状況、管理課題、地域関係者に関する情報を整理する。
- (4) 谷津の生態系管理を実施するとともに、普及のための行事を行う。
- (5) 雨庭モデル事業及び谷津再生活動の実施内容、成果、課題を整理し、次年度以降の展開に向けた実施体制、維持管理方針、資金面、地域関係者との調整事項等を検討する。
- (6) 地域内での活動箇所数の増加と管理の持続性確保に向け、外部機関との連携を進める。

【今年度の到達目標】

雨庭の設置と谷津の自然再生をそれぞれ1か所以上で実施

※302 自然環境の管理に関する活動支援事業

地域の自然環境を継続的に保全・活用していくため、水循環、生物多様性、グリーンインフラ等に関する知識や、現場活動に必要な基本的なスキルを身に付ける機会づくりを支援する。あわせて、活動に必要な人材や道具を整理し、地域の取組につなぐ仕組みを検討する。

【事業内容】

- (1) 草刈り、樹木・竹林の手入れ、湿地管理、道具の安全な使用等、現場活動に必要な知識・技術を整理する。
- (2) 現場活動と連動した学びの機会を検討・試行する。
- (3) 地域内で活用可能な人材、団体、道具、活動拠点等を整理し、必要とする活動につなぐ仕組みを検討する。
- (4) 道具の貸出、保管、利用ルール、安全管理、費用負担等に関する課題を整理する。

【今年度の目標成果物】

活動に必要な人材、団体、道具、活動拠点等の基礎情報の整理結果
道具の共有システムのプロトタイプ

4 影響評価・認証制度検討

企業や行政が継続的に参画するためには、活動の意義を定性的に語るだけでなく、地域にどのような便益が生じたのかを説明できる評価軸が必要である。本事業では、グリーンインフラ認証制度の構築に向け、目的、対象、指標案、運用上の論点を整理する。

※401 グリーンインフラ認証制度検討

令和10年度からの運用開始を見据え、グリーンインフラの導入や地域の自然環境の保全・再生を促進するため、評価・認証制度の基本的な考え方、対象、評価方法及び運用のあり方を整理する。

【事業内容】

- (1) 既存の研究事例、関連制度、地域における実践事例等を踏まえ、グリーンインフラ評価・認証制度の目的及び基本的な考え方を整理する。
- (2) 認証の対象活動として、雨庭、企業敷地における緑化・雨水浸透、谷津・湿地再生、樹林・竹林管理等を整理する。
- (3) 評価項目及び評価指標案として、地下水涵養、暑熱緩和、生物多様性、炭素固定等グリーンインフラの多面的効果を検討する。
- (4) 認証の対象、評価項目、評価指標及び方法を整理し、認証制度の基本設計案及び評価シート素案を作成する。
- (5) 今後の運用に向けて必要となるデータ、実施体制、評価手順及び運用上の課題等を整理する。

【今年度の成果物・到達目標】

グリーンインフラ評価・認証制度の対象、評価項目、評価指標案及び評価方法の基本情報の整理結果

※402 自然管理を支える資金メカニズムの検討

自然の管理に対する民間からの資金動員の仕組みづくりに向け、地域の自然環境の価値評価の手法の検討、ネイチャークレジットを含む資金メカニズムの検討を行う。

【事業内容】

- (1) 全国スケールでの研究と連動した地域版の生物多様性評価指標を検討する。
- (2) 地下水涵養や炭素蓄積など、生態系機能に関する評価指標を検討する。
- (3) 評価指標を活用した資金メカニズムを検討する。

【今年度の成果物・到達目標】

既存の評価指標に関する情報収集と課題の整理

5 普及啓発・広報

LMC 北総の設立を地域内外に周知するため、設立記念イベントを開催する。

※501 設立記念イベントの開催

【事業内容】

- (1) LMC 北総の設立趣旨、活動方針及び今後の取組を地域内外に周知するため、設立記念イベントを企画・開催する。
- (2) 市民、企業、行政等の多様な主体が参加し、地域の自然を活かしたまちづくりについて意見交換を行う場を設ける。
- (3) イベントの開催を通じて、LMC 北総の活動への理解促進、関係主体の参加促進及び今後の連携につなげる。

【今年度の到達目標】

設立記念イベントの開催

502 広報活動

【事業内容】

- (1) LMC 北総の活動内容を発信するため、ウェブサイトを開設し、運用する。
- (2) LMC 北総の設立趣旨、事業内容、参加方法等を紹介する広報資料を作成する。

【今年度の到達目標】

ウェブサイトを開設・運用
広報資料

以上